

加古川市事務事業評価シート〈令和3年度実施事業〉

事務事業名	ICTを活用した安全・安心のまちづくり推進事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【基本情報】

基本目標	02安心して暮らせるまち
政策	03市民生活の安全・安定を確保する
施策	03防犯・交通安全対策の推進
事業実施期間	平成29年度～永年
事業区分	⑤市施策事業(経常)
地区別	市内全域
関連根拠法令等	

【事業概要】

現状と課題	1,475台の見守りカメラの正常な維持管理を行い、見守りサービスの普及に取り組んだ。今後は、経年劣化したカメラが一気に故障することも想定されるなど、様々な課題を洗い出し、運用計画について検討する必要がある。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略で設定したKPI(刑法犯認知件数:目標値1,800件(2026年)・交通人身事故発生件数:目標値1,050件(2026年))を達成する。
対象 ※誰、何に対して	市民
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	市内全28小学校区の通学路や学校周辺等を中心に設置した1,475台の見守りカメラの正常な稼働を維持する。また、必要に応じて見守りカメラの効果的な配置を再検討し、移設を実施する。また、見守りカメラの設置に係る周知、見守りサービスの普及啓発を行う。

【コスト】

	令和3年度(決算見込)	
事業費合計	58,982千円	
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	千円
	一般財源	58,982千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	02 総務費
項	01 総務管理費
目	22 生活対策費
細目	040 ICTを活用した安全・安心のまちづくり推進事業

【コスト推移】

	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算見込)
事業費合計	56,248千円	58,629千円	58,982千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	<p>市内全28小学校区の通学路や学校周辺等を中心に設置した見守りカメラ1,475台の維持管理を行うとともに、必要に応じて移設を行った。また、警察の捜査に画像データを提供し、協力することが事件の早期解決に役立っている。</p>

加古川市事務事業評価シート〈令和3年度実施事業〉

事務事業名	ICTを活用した安全・安心のまちづくり推進事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【対象】

対象指標名	単 位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
加古川市人口(10/1付推計人口)	人	262,308	261,041	259,603

【事業実績】

活動指標名	単 位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
画像提供件数	件	876	803	999
見守りサービス加入者数	人	1,193	1,123	1,525
活動指標分析結果	捜査機関への画像提供件数は999件。サービスの更なる利用促進のため、令和2年10月より認知症高齢者等のサービス利用時の費用全額補助を実施、令和3年度より新小学一年生の初期登録料と月額利用料を無料とした結果、加入者が1,525人に増加した。			

【事業成果】

成果指標名	単 位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目 標 値
刑法犯認知件数	件	2,025	1,684	1,433	令和8年度	1,800
交通人身事故発生件数	件	1,369	952	1,013	令和8年度	1,050
成果指標分析結果	カメラ設置以降の刑法犯認知件数は減少している。					

加古川市事務事業評価シート〈令和3年度実施事業〉

事務事業名	安全・安心パトロール事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【基本情報】

基本目標	02安心して暮らせるまち
政策	03市民生活の安全・安定を確保する
施策	03防犯・交通安全対策の推進
事業実施期間	平成16年度～永年
事業区分	⑤市施策事業(経常)
地区別	市内全域
関連根拠法令等	

【事業概要】

現状と課題	刑法犯認知件数は減少傾向だが特殊詐欺や不審者情報が絶えない。パトロール体制は、令和3年度まで昼4班だったが、隊員の高齢化・人員減により体制維持が困難となり、令和4年度から3班とした。今後も高齢化・人員減は進む見込みのため、事業の方向性や体制の見直しが必要である。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	犯罪の未然防止、市民の防犯意識の高揚を目指すことで、犯罪発生、街頭犯罪や振り込み詐欺、不審者による声かけ事案などの抑止を図る。また、交通安全意識の向上を目指す。
対象 ※誰、何に対して	市民
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	青色回転灯を装着した防犯・交通パトロールカー3台により、児童・生徒の下校する時間帯を中心に地域を巡回する。巡回にあたっては、事前に警察や教育委員会から提供された情報をもとに、学校園や交番、ATMへ立ち寄り、犯罪情報を提供すると共に地域での情報収集を行い、地域の状況に応じたパトロールを行う。併せて、交通ルールの遵守を促す音声を流し、交通安全意識の啓発を行う。

【コスト】

		令和3年度(決算見込)
事業費合計		12,031千円
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	500千円
	一般財源	11,531千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	02 総務費
項	01 総務管理費
目	22 生活対策費
細目	020 防犯のまちづくり支援事業

【コスト推移】

	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算見込)
事業費合計	11,905千円	12,069千円	12,031千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	安全・安心パトロール事業は、犯罪の未然防止、街頭犯罪や声かけ事案の抑止、交通安全意識の向上に繋がっており、非常に有効である。しかし、年々パトロール隊員の高齢化・人員減が進んでおり、今後同様のパトロール体制を維持するのが困難と考えられるため、事業の方向性や体制の見直しが必要である。

加古川市事務事業評価シート（令和3年度実施事業）

事務事業名	安全・安心パトロール事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【対象】

対象指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
加古川市人口（10/1付推計人口）	人	262,308	261,041	259,603

【事業実績】

活動指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
巡回パトロール件数	件	964	910	956
巡回パトロールでの立寄り件数	件	14,352	15,365	16,956
活動指標分析結果	令和3年度も振り込め詐欺防止対策活動として、コンビニエンスストアATMへの立寄り、駐留警戒・店舗従業員との情報交換を積極的に実施した。			

【事業成果】

成果指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目標値
刑法犯認知件数	件	2,025	1,684	1,433	令和8年度	1,800
交通人身事故発生件数	件	1,369	952	1,013	令和8年度	1,050
成果指標分析結果	巡回パトロールによる犯罪抑止や交通安全に関する注意喚起により、刑法犯認知件数は前年の件数と比較して減少している。交通人身事故発生件数は微増に留まっている。					

加古川市事務事業評価シート〈令和3年度実施事業〉

事務事業名	地域見守り防犯カメラ設置補助事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【基本情報】

基本目標	02安心して暮らせるまち
政策	03市民生活の安全・安定を確保する
施策	03防犯・交通安全対策の推進
事業実施期間	平成25年度～永年
事業区分	⑤市施策事業(経常)
地区別	市内全域
関連根拠法令等	

【事業概要】

現状と課題	加古川警察署管内は、刑法犯認知件数が県下においても多い地域であり、女性や子どもを狙った不審者情報が絶えない。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	まちづくり防犯グループ等の地域団体が行う防犯カメラの設置を促進し、犯罪の未然防止、市民の防犯意識の高揚、地域防犯力の向上を目指す。
対象 ※誰、何に対して	まちづくり防犯グループ等の地域団体
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	まちづくり防犯グループ等の地域団体が行う防犯カメラの設置に要する経費の一部を補助する。

【コスト】

	令和3年度(決算見込)	
事業費合計	1,280千円	
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	千円
	一般財源	1,280千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	02 総務費
項	01 総務管理費
目	22 生活対策費
細目	025 地域見守り防犯カメラ設置補助事業

【コスト推移】

	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算見込)
事業費合計	1,840千円	1,280千円	1,280千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	見守りカメラ設置後も一定数の地域団体が防犯カメラの設置に取り組まれており、地域の犯罪発生を抑止、市民生活の安全・安心につながっている。

事務事業名	地域見守り防犯カメラ設置補助事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【対象】

対象指標名	単 位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
まちづくり防犯グループ等の地域団体	団体	320	320	318

【事業実績】

活動指標名	単 位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
まちづくり防犯グループ等の地域団体補助件数	件	15	11	10
まちづくり防犯グループ等の地域団体補助金額	円	1,840,000	1,280,000	1,280,000
活動指標分析結果	令和3年度は10団体に対して補助を行った。			

【事業成果】

成果指標名	単 位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目 標 値
防犯カメラ整備率	%	34.1	35	36.5	令和3年度	10
成果指標分析結果	防犯カメラを設置している地域が増え、市内の防犯カメラ整備率は36.5%となった。					

加古川市事務事業評価シート〈令和3年度実施事業〉

事務事業名	犯罪被害者等支援事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【基本情報】

基本目標	02安心して暮らせるまち
政策	03市民生活の安全・安定を確保する
施策	03防犯・交通安全対策の推進
事業実施期間	平成29年度～永年
事業区分	⑤市施策事業(経常)
地区別	市内全域
関連根拠法令等	犯罪被害者基本法、加古川市犯罪被害者等支援条例、加古川市犯罪被害者等支援条例施行規則

【事業概要】

現状と課題	犯罪被害者等支援取組のために、関係機関や民間支援団体との連携が必要不可欠である。また、二次的被害防止に係る広報、啓発、教育の充実などを今後も講じていく必要がある。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	犯罪被害者等の被害を早期に回復させるとともに、再び平穏な生活を営むことができるよう支援する。犯罪被害者等の二次的被害を軽減する。
対象 ※誰、何に対して	市民、犯罪被害者等
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	犯罪被害者等に総合的な支援を実施するとともに、市民へ被害者支援の啓発を行う。

【コスト】

	令和3年度(決算見込)	
事業費合計	107千円	
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	千円
	一般財源	107千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	02 総務費
項	01 総務管理費
目	22 生活対策費
細目	030 犯罪被害者等支援事業

【コスト推移】

	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算見込)
事業費合計	99千円	359千円	107千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了 現状どおりの事業手段で維持することが適当と思われる。

加古川市事務事業評価シート（令和3年度実施事業）

事務事業名	犯罪被害者等支援事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【対象】

対象指標名	単 位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
加古川市人口（10／1付推計人口）	人	262,308	261,041	259,603

【事業実績】

活動指標名	単 位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
命の大切さを学ぶ授業参加人数（中学校）	人	292	56	56
命の大切さを学ぶ学習会参加人数（職員）	人	25	28	29
犯罪被害者等支援講演会参加人数	人	65	0	79
活動指標分析結果	継続的に学習会や講演会を開催することで、犯罪被害者等の置かれている立場や支援の必要性への理解が深まっている。			

【事業成果】

成果指標名	単 位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目 標 値
犯罪被害者等支援に関する相談件数	件	0	1	0	令和2年度	0
犯罪被害者等支援金給付件数	件	0	1	0	令和2年度	0
成果指標分析結果	継続的に学習会や講演会を開催することで、犯罪被害者等支援について周知・啓発が図られている。					

加古川市事務事業評価シート〈令和3年度実施事業〉

事務事業名	防犯のまちづくり支援事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【基本情報】

基本目標	02 安心して暮らせるまち
政策	03 市民生活の安全・安定を確保する
施策	03 防犯・交通安全対策の推進
事業実施期間	平成16年度 ～ 永年
事業区分	⑤市施策事業(経常)
地区別	市内全域
関連根拠法令等	

【事業概要】

現状と課題	地域防犯活動については、活動団体を対象に年2回会議を実施し、警察の講義や活動団体からの実践報告を行っている。高齢化に伴い、地域防犯活動の担い手不足が課題となっている地域もある。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	地域の防犯活動団体への支援や防犯に関する講座を実施することで、市民の防犯意識向上や防犯活動団体の活動を活発化する。
対象 ※誰、何に対して	市民
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	地域防犯活動団体連絡会議で防犯活動に必要な物資の配布を行うとともに、防犯活動団体相互の情報交換を行う。

【コスト】

	令和3年度(決算見込)	
事業費合計	594千円	
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	千円
	一般財源	594千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	02 総務費
項	01 総務管理費
目	22 生活対策費
細目	020 防犯のまちづくり支援事業

【コスト推移】

	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算見込)
事業費合計	906千円	564千円	594千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	地域防犯活動団体へ向けて、「自らの安全は自ら守る」、「地域の安全は地域で守る」といった防犯意識を継続して高めていくことになり、有効性が高い。

加古川市事務事業評価シート〈令和3年度実施事業〉

事務事業名	防犯のまちづくり支援事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【対象】

対象指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
加古川市人口(10/1付推計人口)	人	262,308	261,041	259,603

【事業実績】

活動指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
講座回数	回	1	1	1
講座参加者数	人	46	35	36
活動指標分析結果	参加者のアンケート結果によると、今後の防犯活動に活かせる講座内容の充実が今まで以上に求められている。			

【事業成果】

成果指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目標値
刑法犯認知件数	件	2,025	1,684	1,433	令和8年度	1,800
成果指標分析結果	防犯リーダー養成と各地域防犯活動団体の活動が、刑法犯認知件数の前年比251件減少に貢献した。					

加古川市事務事業評価シート〈令和3年度実施事業〉

事務事業名	防犯協会事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【基本情報】

基本目標	02 安心して暮らせるまち
政策	03 市民生活の安全・安定を確保する
施策	03 防犯・交通安全対策の推進
事業実施期間	～ 永年
事業区分	⑤市施策事業(経常)
地区別	市内全域
関連根拠法令等	

【事業概要】

現状と課題	刑法犯認知件数は減少傾向にあるが、詐欺被害、女性や子どもを狙った不審者の情報が絶えない。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	警察などの関係機関と連携し、犯罪の未然防止のための活動を行い、市民生活の安全を確保し、明るく住みよいまちづくりを推進する。
対象 ※誰、何に対して	市民
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	防犯キャンペーン・広報活動・街頭啓発・少年非行防止活動・防犯研修会等を防犯協会の組織を通して実施するため、加古川地区防犯協会に負担金を支出する。

【コスト】

	令和3年度(決算見込)	
事業費合計	7,976 千円	
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	千円
	一般財源	7,976 千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	02 総務費
項	01 総務管理費
目	22 生活対策費
細目	020 防犯のまちづくり支援事業

【コスト推移】

	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算見込)
事業費合計	8,477 千円	7,935 千円	7,976 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	加古川地区防犯協会において、防犯に関する広報活動や街頭啓発に取り組んでおり、犯罪防止や市民生活の安全確保に有効である。

加古川市事務事業評価シート〈令和3年度実施事業〉

事務事業名	防犯協会事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【対象】

対象指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
加古川市人口(10/1付推計人口)	人	262,308	261,041	259,603

【事業実績】

活動指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
街頭啓発回数	回	4	2	4
活動指標分析結果	加古川警察署や加古川地区防犯協会と連携して街頭啓発を引き続き実施する。			

【事業成果】

成果指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目標値
刑法犯認知件数	件	2,025	1,684	1,433	令和8年度	1,800
成果指標分析結果	街頭啓発や広報活動等の実施により刑法犯認知件数は、前年と比較して減少している。					

加古川市事務事業評価シート〈令和3年度実施事業〉

事務事業名	交通安全対策事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【基本情報】

基本目標	02安心して暮らせるまち
政策	03市民生活の安全・安定を確保する
施策	03防犯・交通安全対策の推進
事業実施期間	～ 永年
事業区分	⑤市施策事業(経常)
地区別	市内全域
関連根拠法令等	

【事業概要】

現状と課題	交通事故発生件数は毎年減少傾向にあるものの、依然として高齢者や自転車に関係する事故は多発しており、学校園や高齢者団体等から交通安全教室の開催要望は多い。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	市民一人一人へ、交通ルール・マナーの遵守及び交通安全意識を高揚させることにより、交通事故防止を図る。
対象 ※誰、何に対して	市民
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	加古川警察署や加古川交通安全協会などの関係機関と連携しながら交通安全普及啓発活動や交通安全教室を実施する。

【コスト】

		令和3年度(決算見込)
事業費合計		1,989千円
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	千円
	一般財源	1,989千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	02 総務費
項	01 総務管理費
目	09 交通安全対策費
細目	010 交通安全対策事業

【コスト推移】

	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算見込)
事業費合計	2,142千円	1,392千円	1,989千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	交通安全啓発活動、交通安全教室を継続して行うことは、市民の交通安全に対する意識の向上、交通ルールやマナーを身につけることにつながっており、効果的である。しかし、依然として多発している高齢者の事故、自転車関係事故の撲滅を重点事項と位置づけて事業を実施する。

加古川市事務事業評価シート〈令和3年度実施事業〉

事務事業名	交通安全対策事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【対象】

対象指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
加古川市人口(10/1付推計人口)	人	262,308	261,041	259,603
市内小学校の児童数	人	14,418	14,127	13,847
市内中学校の生徒数	人	6,927	6,973	6,921

【事業実績】

活動指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
交通安全教室の開催	回	88	18	49
街頭啓発回数	回	38	1	31
活動指標分析結果	全国交通安全運動期間中(春のみ実施)及び月例啓発等の街頭啓発を31回行った。交通安全教室は、保育所等・幼稚園・小学校・中学校及び高齢者等を対象として49回実施した。			

【事業成果】

成果指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目標値
交通人身事故発生件数	件	1,369	952	1,013	令和8年度	1,050
成果指標分析結果	人身事故件数は減少傾向だが、令和3年は令和2年に比べて増加した。交通事故撲滅のため引き続き交通安全教室・街頭啓発を実施する。					

加古川市事務事業評価シート〈令和3年度実施事業〉

事務事業名	交通安全指導員事業	部局名	教育総務部
		課(室)名	学務課

【基本情報】

基本目標	02安心して暮らせるまち
政策	03市民生活の安全・安定を確保する
施策	03防犯・交通安全対策の推進
事業実施期間	昭和43年度～永年
事業区分	⑤市施策事業(経常)
地区別	市内全域
関連根拠法令等	加古川市交通安全指導員設置要綱

【事業概要】

現状と課題	全国でも登下校中の児童の事故が多発している。市内通学路にはハード面での安全対策が困難な箇所も多く、交通安全指導員とボランティアによる見守りが行われている。交通安全指導員の高齢化等様々な課題もあるため、制度の見直しが必要となっている。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	①児童を交通事故から守る②児童の交通安全に対する意識が向上する③児童が交通安全に関する知識を習得する
対象 ※誰、何に対して	加古川市立小学校に在籍する児童
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	加古川市立小学校児童の登下校における交通安全を図るために、通学路の危険箇所に交通安全指導員を配置する。

【コスト】

	令和3年度(決算見込)	
事業費合計	52,327千円	
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	千円
	一般財源	52,327千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	10 教育費
項	08 保健体育費
目	01 保健体育総務費
細目	015 交通安全指導員事業

【コスト推移】

	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算見込)
事業費合計	48,360千円	48,821千円	52,327千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	<p>児童の登下校の安全確保のための取組は必要である。通学路の危険箇所には引き続き交通安全指導員を配置するとともに、PTA、地元町内会、学校支援ボランティアと連携し、交通事故の防止に努める。また、配置箇所の状況を把握し、配置の適正化を行うとともに、登下校の安全確保のため、様々な手段について検討を行う必要がある。</p>

加古川市事務事業評価シート（令和3年度実施事業）

事務事業名	交通安全指導員事業	部局名	教育総務部
		課(室)名	学務課

【対象】

対象指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
市立小学校児童数	人	14,418	14,127	13,847

【事業実績】

活動指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
交通安全指導員配置箇所数	箇所	98	98	98
小学生の登下校中における交通事故件数	件	4	3	2
活動指標分析結果	令和3年度は、交通安全指導員を98箇所配置し、市内小学校の通学路における危険箇所については、概ね配置できていると考えている。ハード面での整備や指導員の配置等により、児童の登下校時における交通安全に努めているところである。			

【事業成果】

成果指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目標値
交通安全指導員配置時の交通事故件数	件	0	0	0	令和4年度	0
成果指標分析結果	令和3年度は小学校の登下校時において2件の交通事故が発生した。うち、交通安全指導員配置時に交通事故は発生していない。					